

『霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の利活用に関する研究』

東京文化財研究所 アソシエイトフェロー 藤井 郁乃

キーワード：ジオツーリズム、地理情報システム（GIS）、地域資源、文化財・文化遺産

1. はじめに

2015年、国連教育科学文化機関（以下、ユネスコ）が公式プログラムとして開始したユネスコ世界ジオパークプログラム（以下ジオパーク）は、国際的に重要な地質遺産・景観を有するエリアを、保護・教育・持続的可能な開発という全体的な考えのもとで活用していくことを目的とする遺産保護プログラムである。地質、大地を意味する「ジオ」を冠するジオパークであるが、その対象は地質遺産に限定されないことをユネスコは明白に述べており、自然遺産・文化遺産・無形遺産といった地域に存在するあらゆる要素を地質遺産と結びつけ、そのつながりを持続可能な地域の開発に生かしていくことが謳われている（UNESCO, 2016）。言い換えれば、ジオパークは、地域に存在する多種多様な遺産や地域資源と、それを生み出す原点となったジオの重層的なつながりを意識した上で、保護と活用を推進するものだと考えられる。実際に、国内のユネスコ世界ジオパークの再認定審査でも、ユネスコの審査員から「地質遺産と他の遺産を持つエリア（自然生物、文化、無形）のつながりを強化させる」という指摘がされているように（室戸ユネスコ世界ジオパーク, 2020）、ジオパークにおいて地質遺産に限定されない、地域資源の全体的な活用が強調されるようになってきている。そこで本研究では、霧島ジオパークを対象として、地理情報システムを用い、域内の地域資源の種類や所在、その特徴について包括的な把握を行った上で、霧島ジオパークにおける重層的な地域資源の一体的な活用方法について考察を行うことを目的とする。

2. 調査方法

まず、霧島ジオパーク内の地質遺産・自然遺産・文化遺産（有形・無形）の価値を反映していると考えられる霧島ジオパーク内の地域資源について、その所在と傾向を分析した（表1）。次に、次に、霧島ジオパーク内で地域住民が主体となって実施されるツーリズムについて、各団体の所属ガイドに対して半構造化面接法による聞き取り調査を行い、各ツーリズムのルートや対象とする資源を把握した。なお、今回はデータ移行の簡便性といった利点から、地理情報システムとしてGoogle earth（以下GE）を採用し、得られた情報をGE上に集約し、霧島ジオパークが有する地域資源の地理的特徴について分析を行った。

表1：分析の対象としたデータ一覧

番号	参照データ	参照元	地域資源の種類
(1)	霧島ジオパークジオサイト	霧島ジオパーク公式ウェブサイト(2023)*	地質、自然、文化遺産
(2)	霧島錦江湾国立公園区域及び公園計画	環境省 九州地方環境事務所 (2020)	自然遺産
(3)	巨樹・巨木	環境省自然環境局 自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 (1990) 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書 (2001)	自然遺産
(4)	特定植物群落	環境省自然環境局 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 (1978) 特定植物群落調査報告書 (1988) 特定植物群落調査報告書 (2000)	自然遺産
(5)	国・県・市指定文化財	文化庁 国指定文化財等データベース (2018) 各市町村ホームページならびに各市町村教育委員会もしくは文化財課等の関係部署への問い合わせ	地質、自然、文化遺産

### 3. 結果・考察

本研究では、重層的な地域資源の一体的な活用方法として以下の3点を指摘した。

#### (1) 既存のモデルコースに幅広い地域資源を組み込むことによる地域資源の重層性の提示

霧島ジオパークでは2つのモデルコースを提示しているが、このうち山岳コースは国立公園区域と重複しており、ツーリズムの参加者はジオパークと国立公園の両側面を意識できるようになっていた。また、コースの一部や周辺には特定植物群落も多くあり、ツアーの参加者は霧島山系が生み出す植生の多様性を楽しめるようになっていた。この一方、甕岳針葉樹林（えびの市国指定天然記念物）、エヒメアヤメ自生南限地帯（小林市国指定天然記念物）、錫杖院墓地（高原町指定史跡）など、山岳コースのコース上や近隣に指定文化財が見られたが、これらの説明はコースやジオサイトの説明には見られなかった。もう一つの山麓コースでは、湧水町を除く6市町村区域にコースが設定されており、霧島神宮といった文化遺産や、高千穂ファーム、物産館といった施設がコースに含まれていた。山岳コースと同様に、コース上や周辺に様々な特定植物群落、指定文化財や巨樹巨木が見られたものの、これらの地域資源の重なりがジオサイトとして紹介されることはなかった。見どころとして紹介されるジオサイトも、火山や滝といった地質遺産もしくは自然遺産が大半を占めており、霧島ジオパークが有する文化的な多様性が地質遺産や自然遺産に比較すると見えづらくなっていた。山岳コースや山麓コースは、霧島ジオガイドネットワークに所属するガイドが慣れ親しんでいると考えられ、まずはこのコースの周辺にある特定植物群落、巨樹巨木、指定文化財といった地域資源をツーリズムの資源とすることで、ツアー参加者が霧島ジオパークの多様な地域資源から地質、自然、文化の連綿としたつながりをジオパークの枠組みの中で享受することができるようになると考えられた。

#### (2) 様々なガイド団体の連携による対象エリアと対象地域資源の拡大

霧島ジオパークのモデルコースは霧島連山が中心となっている一方で、霧島ジオパーク域内で活動する各ガイド団体は、それぞれの得意分野を生かす形で、霧島連山周辺の広いエリアを活動対象としていた。各団体に所属するメンバーは、自発的に学び合った内容を勉強会という形で伝えあい、活動を進化させていた。域内で活動するガイド団体と霧島ジオパークが連携をすることで、多様な地域資源を活用した様々なコースが生まれ得る。それだけではなく、一部団体はジオパークとの連携を視野に入れており、ジオパークを媒介とした各団体の連携が展開されることも期待された。

#### (3) 多様な専門家の巻き込みを通じた学術横断的アプローチによる地域の一体的な評価

霧島ジオパークの域内に存在する地質資源は非常に多種多様であり、地質遺産に限定されない様々な種類のものがあつた。現在のジオサイトでは地質遺産、自然遺産の側面が強調されていたが、地球科学に依らない多様な専門家を巻き込むことによって、霧島ジオパーク域内にある地質遺産、文化遺産、自然遺産としての側面が地域住民に分かりやすい形で結びついていくと考えられる\*。多様な専門性によって地域の資産を再評価することで、地域の新たな結節点が発見され、この結節点によって霧島ジオパークの一体性が高まることが期待できる。これにより、より多くの地域住民を巻き込んだジオパーク活動や、周遊観光の強化、それに伴う産業の拡大が見込まれ、ジオパークがねらいとする地域資源を包括的に活用した持続可能な開発へと発展する可能性が示唆された（図1）。

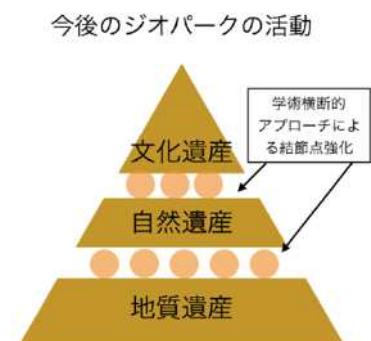


図1：活動のイメージ図

**\*注** 霧島ジオパークでは、2020年11月からエリア拡大プロジェクト・チームにより新たな候補地の選定作業を行い、2022年4月にジオサイトの見直しを行った。これにより、従来38か所だったジオサイトが168か所（地形・地質サイト48か所、自然サイト18か所、文化サイト55か所、ビュースポット31か所、施設16か所）に拡大されている。しかし、本研究では2022年4月時点で霧島ジオパーク公式ウェブサイトで公開されていた見直し前のサイトを分析の対象とした。

## 参考・引用文献一覧

UNESCO (2016) : UNESCO Global Geoparks, UNESCO, Paris.

室戸ユネスコ世界ジオパーク(2020)ユネスコ世界ジオパーク再認定審査の結果について: UNESCO 再審査指摘事項(仮訳), (<https://www.muroto-geo.jp/news/13824/>, 2020年1月22日更新, 2023年4月25日最終閲覧).

霧島ジオパークウェブサイト: 見どころ, (<https://kirishima-geopark.jp/geosite/>, 2023年4月25日最終閲覧).

環境省自然環境局 生物多様性センター(<https://gis.biodic.go.jp/webgis/>)より以下のデータを参照(2023年2月11日最終閲覧)

- ・環境省九州地方環境事務所(2020)霧島錦江湾国立公園区域及び公園計画
- ・環境省自然環境局(1990)自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書
- ・環境省自然環境局(2001)巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書
- ・環境省自然環境局(1978)第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書
- ・特定植物群落調査(1988)第4回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書
- ・特定植物群落調査(2000)自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書

文化庁(2018)国指定文化財等データベース (<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>, 2022年12月19日更新, 2023年2月11日最終閲覧) .

霧島市(2023)指定(登録)文化財一覧 (<https://www.city-kirishima.jp/bunka/kyoiku/rekishi/bunkazai/shitebunkazai/bunkazai-itirannhyou.html>, 2023年1月11日更新, 2023年2月11日最終閲覧) .

都城市オープンデータカタログサイト, 045202\_文化財一覧.xlsx

([https://data.bodik.jp/dataset/452025\\_bunkazai\\_list/resource/c3cbc86c-e41b-4ba9-97e1-d3e3ab2cade1](https://data.bodik.jp/dataset/452025_bunkazai_list/resource/c3cbc86c-e41b-4ba9-97e1-d3e3ab2cade1), 2022年12月17日更新, 2023年2月11日最終閲覧) .